

開校 150 周年



学 校 だ よ り

は え  
南 風 の 子

中種子町立

南界小学校

令和5年6月16日



## 学びの姿

校 長 芝原 にほ

今年も雨の季節がやってきました。本校では、室内で過ごすことの多いこの時期を好機と捉え「校内読書旬間」を設定しています。図書委員会を中心に、楽しい企画が盛りだくさんで、子供たちは大いに楽しんでいます。鹿児島県図書館協会の「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」に因み本校でも「親子読書」の取組を始めました。読書習慣は子供の頃に身に付けていないと、大人になってからはなかなか習得しがたいものです。小さい頃は読み聞かせを、自分で読めるようになったら家族が同じ空間でそれぞれ本を読むなど「家読<sup>うちどく</sup>」に取り組んでみてはいかがでしょうか。親御さんには、各家庭における読書環境を整えて欲しいと思います。

ところで、皆さんは自分の小中学校の頃の授業風景というと、どんな景色を思い浮かべるでしょうか。先生が、黒板の前において説明しながら板書し、児童生徒は黙々とノートを取っている…こんな光景が浮かぶ人も少なくないかもしれません。しかし、今、教室での学習風景は大きく変わりつつあります。

世の中は人工知能(AI)が飛躍的な進化を遂げ、社会構造等が大きく変化して「予測困難な時代」と言われています。そのような社会にあっては、誰か一人だけで問題を解決していくことは到底不可能です。これからの社会を生きていくには「様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく」力が不可欠です。学校では、この「他者と協働して解決する力」こそが、生きて働く真の学力であると捉え、そのような授業を目指しています。その時間に解決したい課題に対して、子供同士が「ああでもない。」「こうでもない。」「それってどういうこと?」と会話を交わし、時には「自分たちだけではどうしても分からないね。タブレットで調べてみよう。」などと言いながらゴールへたどり着くイメージです。得意分野が違う子供(多種多様な価値観)がいてこそ成立します。得意を生かすには「なんで?」「どうして?」「本当に?」と聞いてくれる子の存在が重要です。先生は、子供たちの様子を見ながら誘導するファシリテーターであればよいと思います。



ここまで読んできて、保護者の皆さんの中には「それ、うちの子の学級ではもうやっているけど…」と思った方もいるのではないのでしょうか。1人の先生が2学年を担当する複式学級では、必ず、子供たちだけで学習を進める時間があります。つまり、南界小の授業は「子供が協働して課題を解決する」という目指すべき授業の姿にかなり近いのです。今後、更に子供たちが夢中になって取り組み生き生きと学習する授業にしていきます。南界小では「子供が主役!子供が活躍する授業!!」を目指します。このことは、子供が活躍する南界校区へとつながり、子供たちの自己肯定感を高めるものと信じています。